２０２１年度
事業報告

放課後等デイサービスわたぼうし

２０２１年度　実績

項目	回数・金額
開所日数	２４７日
登録児童数	２７名
延利用数	１９２７日
平日平均	７．８名
保育料・事業費	２０,８６７,９９６円
おやつ・教材費	３８５,２００円
レスパイト	２８,８００円
レスパイトの回数	３１回
その他	２３,８５０円
合計	２１,３０５,８４６円

・事業収益目標　２０,３００,０００円

事業費実績　２１,３０５,８４６円

・達成率　１０５％

達成の背景

・チャレンジ企画の実施(土曜日開所6回)、休日開所を２日実施した。

・長期間休む児童が出たが、追加利用の受け入れを行い、穴埋めを行った。

・年度途中から利用を開始した児童に対しても、個別サポート加算の再判定希望を行い、加算の取得をした。

２０２１年度報告

〇目標１：　新型コロナウイルス感染症に負けない安定した事業運営を行う

・感染拡大時の併用利用児童の事業所の一本化

・感染拡大時等のおやつの持ち帰り

・取り組み内容の見直し。休日開所の場合は、午後の活動をメインに設定し、自宅で昼食を取ってから参加できるようにした。

〇課題点

・感染拡大時、長期に渡って休む家庭が見られた。リモート等の活用が出来ておらず、また、保護者や本人にとって事業所がどうしても行かせたい場所になっていなかった。

２０２１年度報告

〇目標２　：　良いと思ったことはすぐに実行する

（・会議の削減/・報連相の徹底/・取り組みの担当制からチームでの運営）

・打ち合わせ、振り返りの実施、気づいた点はその場で共有、改善できるように努めた。

〇課題点

・会議の際に、５Ｗ１Ｈで確認が出来ておらず、準備が遅れた。

・振り返りの内容が反映されていないことが多い。

・報連相が十分ではなく、伝達ミスが多い。

２０２１年度報告

〇目標１：適正利用を促し、子どもたちが地域社会で生活できるスキルが身につくようにする。

（発達支援内容の工夫）

・子どもの自主性を尊重し、子どもたちが話し合って決定できるようにした。

・仲間意識を持てるように取り組みを設定した。

・個々の発達段階に合った内容にし、小グループで実施した。

（発達支援の工夫）

・個別に合ったスケジュールや手順書を用意し、手助けを減らし、自分たちで行動できるようにした。

・単に構造化をして刺激を減らすだけでなく、具体的な行動を見て分かるようにし、見通しが立つようにした。

（家族支援）

・年２回の面談を実施。ご家族からの質問や不安に対して、丁寧に対応していった。

２０２１年度報告

〇目標２：学童との併用利用の活用　～地域の子どもたちの育ちを支える～

・小学校や近隣の保育所に事業所のパンフレットを置かせてもらい、利用に繋がった。

・学童保育併用利用児について、計画面談の際に学童スタッフも同席し、目標や課題の共有をした。

各取り組みの報告

各取り組みの報告

〇チャレンジ企画

自分たちで意見を出し合い、今年度は体力づくりと、海でシーグラス拾いの２つを決めて実施した。ただやりたいという意見だけでなく、どんな良いことがあるのか等、取り組み内容について深く考えて発表出来るようになった。

〇課題点

一つの意見に絞ることが難しかったため、双方の意見を実現出来るよう、海が近くにある公園に行くことで、２つを同時に実施した。自身の希望や意見は言えるようになってきているが、妥協する、折り合いをつけるという点では、さらに経験値を増やしていく必要がある。

各取り組みの報告

○SST

オンラインゲームやインターネットのマナー等、子どもたちが身近に感じやすい内容を中心に実施し、興味を持てるようにした。また、友達と話し合うスキルが身につくよう練習をしてきたことで、年度末にはこれまではスタッフが内容を設定していた一部のイベント等も、自分たちで内容を決め、グループで実施することが出来た。

○課題点

子ども達同士の間で実際に起きている場面を題材にして、クイズ等を実施したが、自身の行動と結びつけて考えることが難しく、般化が十分ではなかった。

また、クイズや動画を見るなどの取り組みが中心であったため、気持ちの折り合いをつけたり、失敗しても大丈夫という経験をする機会が少なかった。

各取り組みの報告

○工作

「作成したもので遊べる」という点は達成することが出来たが、友達と一緒に遊ぶことにはつながりにくく、主に一人で遊んでいた。作ってみたいものについて、子どもたちから自主的に発信することは難しかったが、子どもたちの日頃の様子から、興味を持てそうなものを考案して設定していくことが出来た。

○課題点

友達と一緒に遊ぶことにはつながりにくく、制作したものは主に一人で遊んでいた。作ったものを活用した集団遊びを考案し、同時に実施していく必要があった。

各取り組みの報告

○音楽遊び

ゲーム性のあるプログラムを取り入れたり、子どもたちが好きな曲を使って実施することで、興味を持って取り組めることが増えた。また、子どもたちから好評だったプログラムは、定期的に取り入れ、繰り返し実施できるようにした。

○課題点

見る力を養うことが出来るよう、楽器や曲に合わせて風船、ハンカチなどを使う取り組みを実施したが、飽きてしまう事も多かった。好きな曲を流すだけでなく、プログラムそのものを楽しめるように雰囲気を作っていく必要があった。

各取り組みの報告

〇集団遊び

身体を動かす遊びだけでなく、カードゲームやボードゲーム等、普段の遊びに取り入れやすい遊びも設定した。一度体験した遊びは、自由時間に繰り返し友達と一緒に行うことが出来る場面も増えた。

〇課題点

外遊びや、体を使った遊びの設定が少なく、十分な体力がついていないため、外遊びに出掛けた際には疲れやすさが見られた。また、集団遊びの中で役割を担う経験が少なく、自分たちで役割を決めて遊ぶ力が十分についていなかった。

各取り組みの報告

〇畑クラブ

子ども達の意見を取り入れながら植える野菜や花を決め、取り組みを行った。個々のスキルに合わせ、庭の整備や柵の設置などの役割を分担することで、それぞれが自身の役割を持って参加することが出来た。

〇課題点

繰り返し行ってきて大きな変化を付けられなかったことで、野菜や花を育てることに対するモチベーションがやや低下しており、収穫や畑の世話に対する楽しみが薄れていた。

各取り組みの報告

〇作業療法

・低学年を中心に、感覚統合のアプローチを行った。

(肋木やスイング等の道具を活用した体幹運動。/ボールを使ったビジョントレーニング等

・個別で実施した際の評価を、集団活動や自由遊び・宿題等の場面に反映していけるよう提案を行った。

・特性に合わせた運動を取り入れられるよう、事前に取り組みの設定や支援方法について話す機会を増やした。

〇課題点

・わたぼうしの中でできるようになったことが、実際に自宅や学校でできているのかなどの把握が難しい。また、事業所で上手くできるようになっていることを随時情報提供していく必要がある。